



ホルムアルデヒド検知器

FP-31用

データログマネージメントプログラム

SW-FP-31

取扱説明書

理研計器株式会社

〒174-8744 東京都板橋区小豆沢 2-7-6

ホームページ <http://www.rikenkeiki.co.jp/>

目次

	頁
1. はじめに	3
1-1. このプログラムの目的と特徴	3
2. インストールとアンインストール	4
2-1. 使用環境のご注意点	4
注意：CD-ROMの取り扱いのご注意点	4
2-2. ソフトウェアのインストール	4
2-3. インストール作業の流れ	5
注意：再インストールにおける過去データの保存	8
注意：Windows 7,8,10でのインストール注意点	8
2-4. アンインストール作業	9
3. 操作方法	11
3-1. ダウンロード画面	11
① FP-31からデータを受信する	12
② 機器情報データを受信する	13
③ データのダウンロード	14
④ 本体データの一齐ダウンロード	15
⑤ FP-31本体のデータクリア	16
⑥ FP-31本体の電源OFF	16
⑦ 自動処理に変更する	17
3-2. データ閲覧画面	18
① データを削除する	19
② データの詳細を見る	19
③ スナップリストを出力する	20
④ パスワードの変更	21
⑤ 概要表示欄	22
3-3. データ詳細画面	23
① プリンタに印刷する	24
注意：プリンタ設定の注意点	25
② ファイルに保存	26
③ データの概要が同時に知りたいとき	27
3-4. 設定画面	28
① フォントの変更	29
② 本体ステータスの変更	30
③ FP-31本体への変更通知	30
4. データの保守	31
4-1. データの格納構造の詳細	31
4-2. バックアップ	31
5. 使用上の注意点	32
6. トラブルシューティング	33
7. IrDA仕様	34
7-1. 赤外線通信について	34
7-2. 通信開始の状態表示	34
8. ファイル構成	35
8-1. インストール直後のカレントディレクトリ	35
8-2. 運用中のカレントディレクトリ	35
9. ソフトウェア機能諸元	36

1. はじめに

本取扱説明書に記載されている操作方法及び、注意事項は、指定の使用目的に使用する場合のみ適用するものです。本取扱説明書に書かれていない使用方法を行う場合は、当社としては責任は負いかねます。

本取扱説明書では、Microsoft Windows 7、Windows 8 および Windows 10 のコマンド選択やダイアログボックスの設定などの基本的な共通操作については説明していません。初めて Windows をお使いになる方は、最初に Windows のマニュアルなどをお読みになり、Windows の基本的な操作方法を覚えてください。

警告

本製品のプログラム配布用CDの種類は「CD-ROM」です。
一般オーディオ用CDプレーヤーなどでは絶対に再生しないでください。
大音量により耳に障害を被ったり、スピーカーを破損する恐れがあります。

注意

ポインティングデバイスの必要性

本ソフトウェアは、マウス・タッチ패드などのポインティングデバイスを必要とします。
キーボードのみでの操作は出来ません。

1-1. このプログラムの目的と特徴

本プログラムは、FP-31 に搭載されていますデータログ機能を使用して収集したデータをパソコンに取り込み有効活用するためのソフトウェアです。

データログ機能によって収集したデータをパソコンに取り込むことで次のような利点があります。

- ・ 収集データの一覧表示ができます。
- ・ 収集データの詳細をグラフ化したり、表にして見ることが出来ます。
- ・ グラフや、表のデータを印刷して紙で保管できます
- ・ 過去のデータを記録しておけます
- ・ データを手書きで紙に書き写す必要がなくなります。
- ・ 校正が必要な機器をすばやく知ることができ、自動的に校正を行なうことが出来ます。
- ・ 複数の機器の管理が容易に行なえます。

おことわり

- 本書の内容の全部または一部を当社に無断で転載あるいは複製することは、法令に別段の定めがある場合を除き、堅く禁じられています。
- 本書の内容は、本製品の改良のため予告なく変更することがあります。
- 本製品をご使用になるには、別掲の「ソフトウェア使用許諾契約書」にご同意いただくことが必要です。パッケージを開封された際に、同条項へのご同意があったものとさせていただきますので、ご了承ください。
- 本ソフトウェアは、所定の目的以外の使用はできません。取扱説明書に従わず本ソフトウェアを使用した場合、あるいは独自の改造をした場合、製品の安全と品質が維持できなくなる場合があります。また、これらによって事故が発生した場合は責任を負いかねます。

(c) Copyright 2014 Riken Keiki co.,Ltd. All rights reserved.
本ソフトウェアの著作権は理研計器株式会社が保有しています。

Microsoft Windows 7、Windows 8、Windows 10 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

2. インストールとアンインストール

2-1. 使用環境のご注意点

本プログラムは、Microsoft 社製のオペレーティングシステムである、Windows 7、Windows 8、Windows 10 での使用が可能です。他のオペレーティングシステム上での使用は出来ませんのでご注意ください。

本プログラムの、インストール時には最大約40MB のハードディスク容量が必要になり、運用時にはデータ数に応じてハードディスク容量が必要になります。容量に十分余裕のある状態でご使用ください。

注意

CD-ROM の取り扱いのご注意点
<ol style="list-style-type: none">1. CD-ROM の保管 直射日光が当たる場所や高温多湿の場所での保管はしないでください。2. CD-ROM ドライブの指定 スロットインタイプの CD-ROM ドライブでのご使用は避けてください。 CD-ROM に貼付してあるラベルが影響して、CD-ROM の取り出しが上手く出来ないことがあります。 ご使用になる CD ドライブは、トレイ方式をご使用ください。

2-2. ソフトウェアのインストール

ご使用になる、パーソナルコンピュータの CD-ROM ドライブに本プログラムの納められたインストール CD をセットします。しばらくするとインストール画面が自動的に起動します。

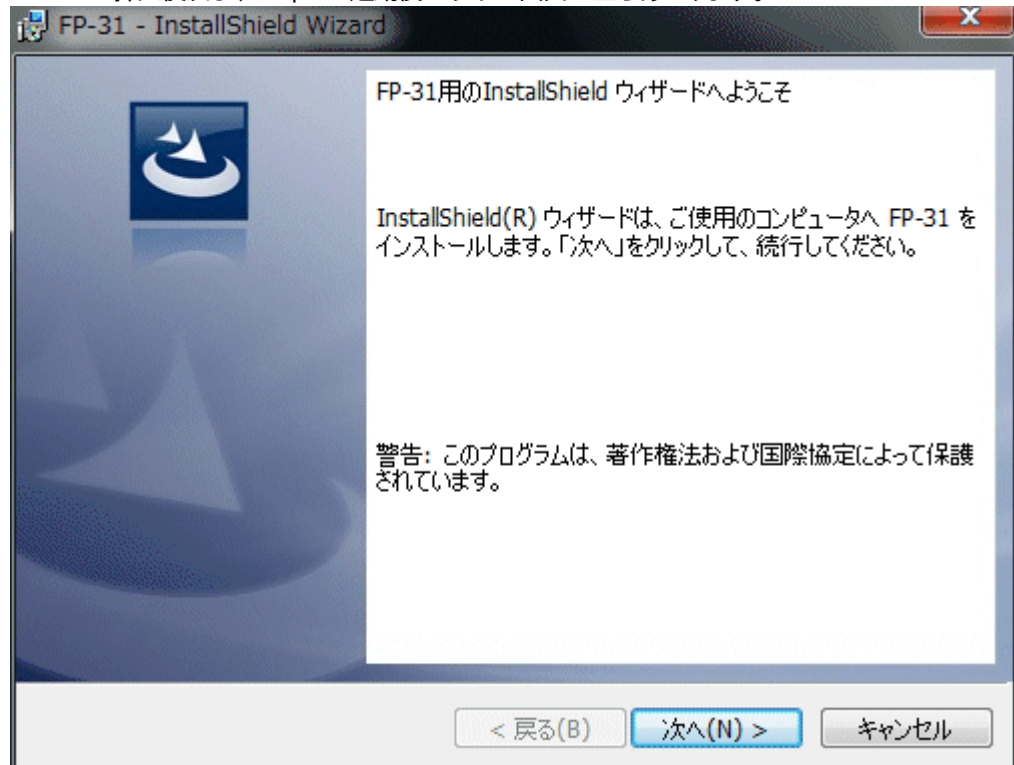
ご使用のパーソナルコンピュータが CD-ROM 自動起動処理に対応していない場合は、以下の方法で作業を進めます。

1. エクスプローラで CD-ROM ドライブを開きます。
2. “setup.exe” ファイルをダブルクリックします。

2-3. インストール作業の流れ

● セットアップの起動

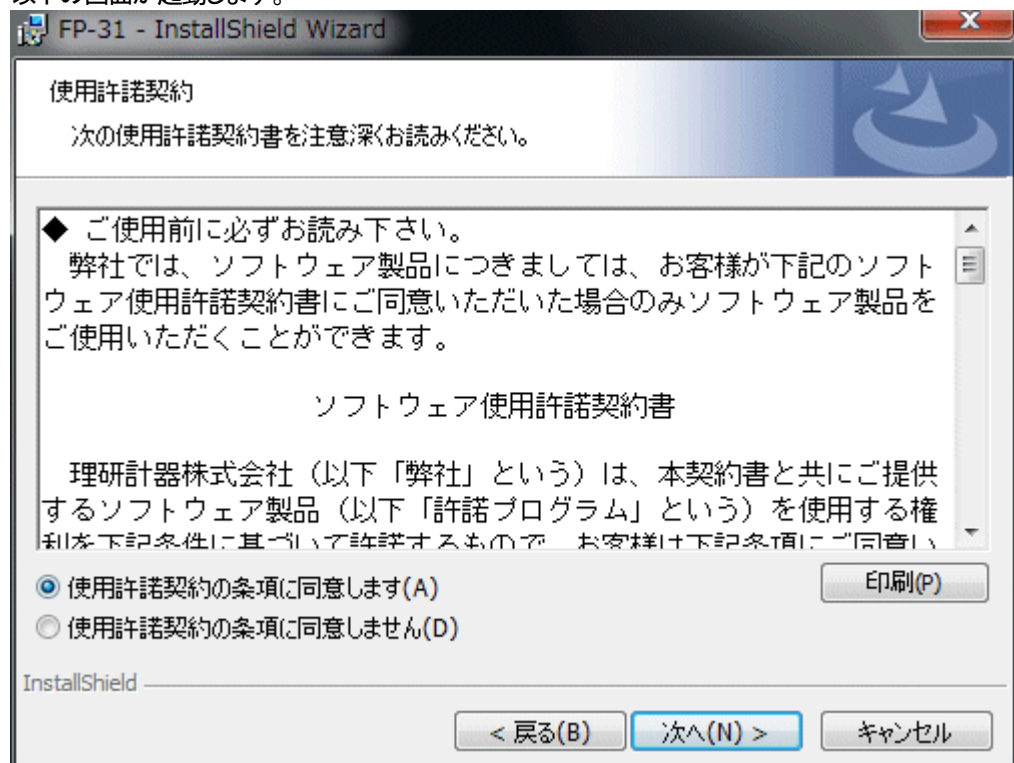
CD-ROM 挿入後及び、setup.exe 起動後に以下の画面が立ちあがります。



“次へ”ボタンをクリックしてください。

● 使用許諾の同意

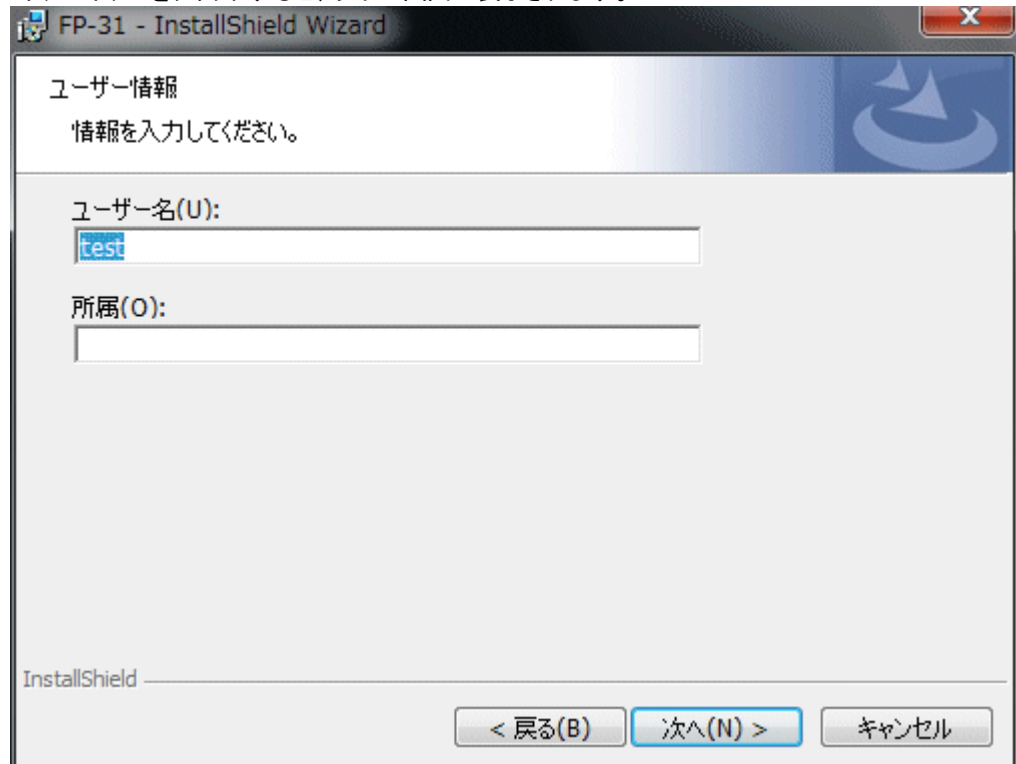
以下の画面が起動します。



インストールを行う場合は“次へ”、中止する場合は“キャンセル”ボタンをクリックしてください。
注意:ソフトウェア使用許諾契約書の内容を十分ご理解の上、本ソフトウェアのインストールを進めてください。

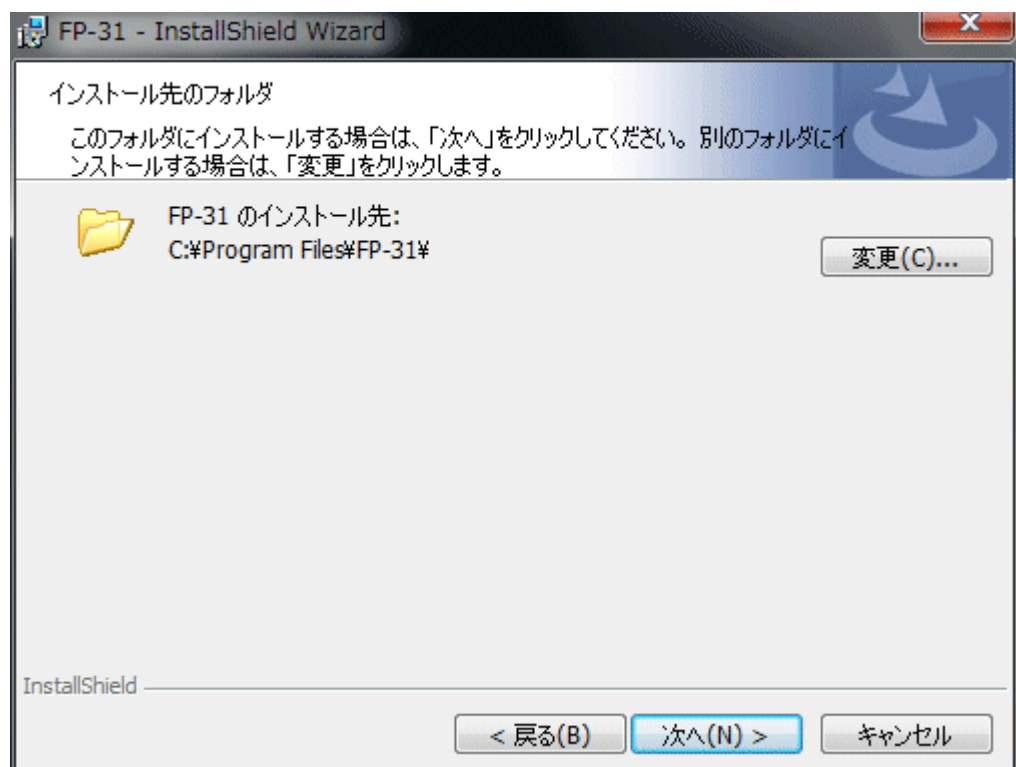
● ユーザ情報

“次へ”ボタンをクリックすると、以下の画面が表示されます。



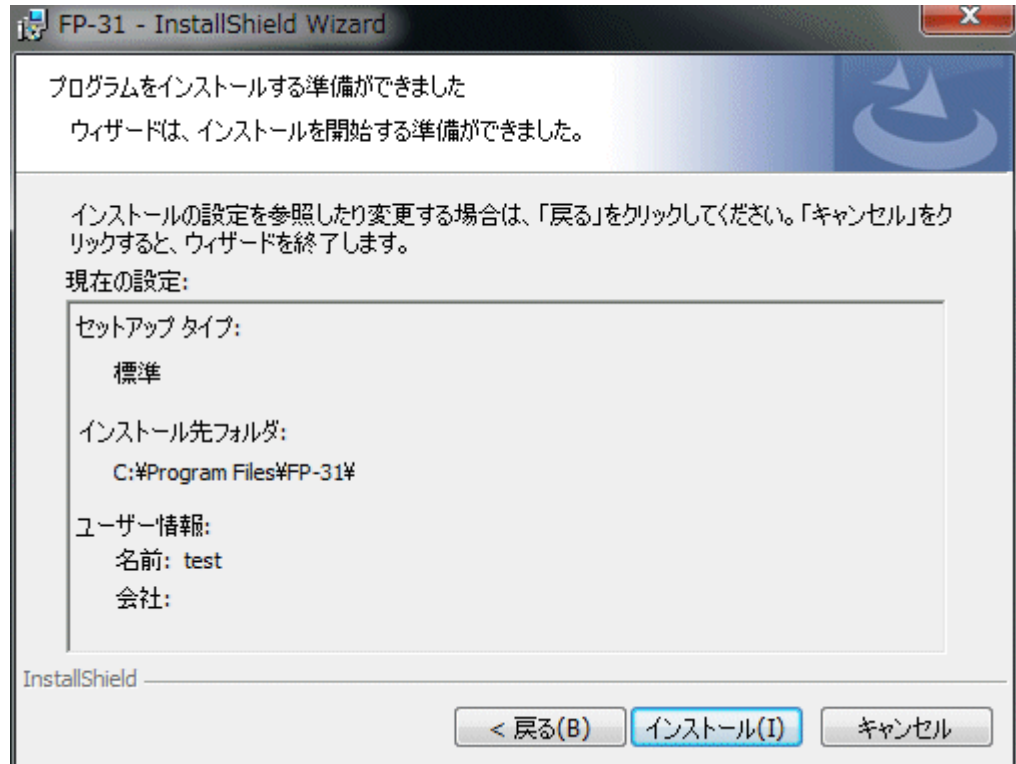
“次へ”ボタンをクリックします。

● インストール先のフォルダ



“次へ”ボタンをクリックします。

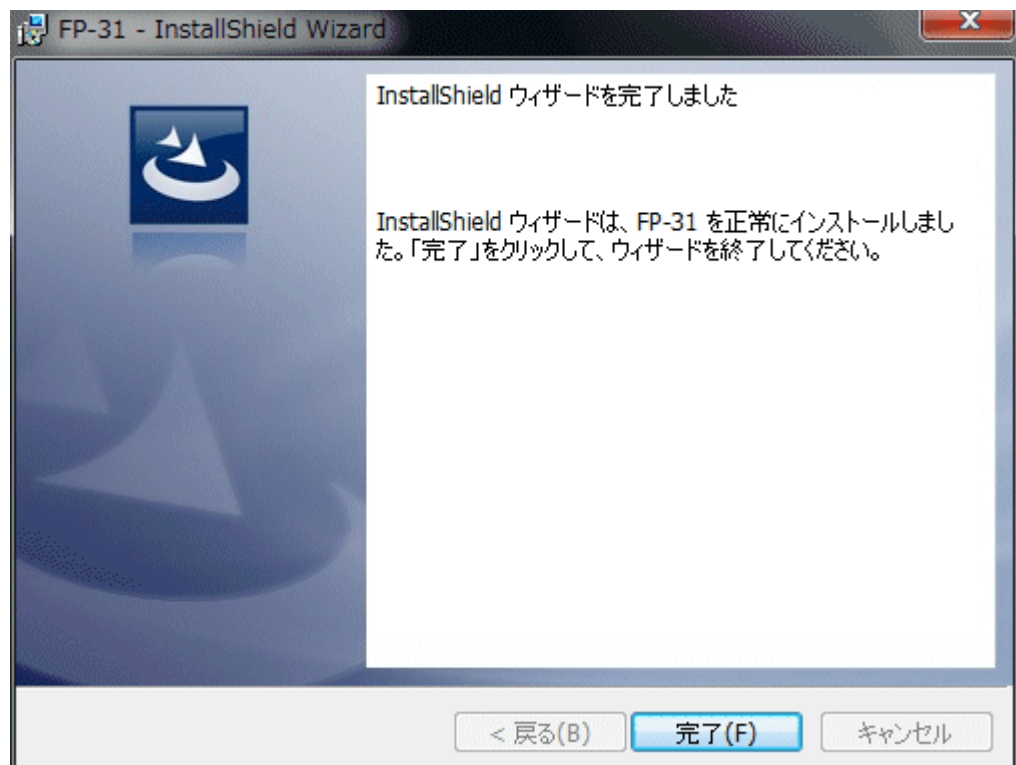
● セットアップの開始



“次へ”ボタンをクリックすると、インストールが開始されます。

● 完了

セットアップ作業が終了すると以下の画面が表示されます。



セットアップ完了後は、直ちに本プログラムがご使用になれます。

注意

再インストールにおける過去データの保存

再インストールを行なう場合は、以下の事柄に注意してください。

1. 一度アンインストールを行なってから、再度インストール作業をしてください。
2. 運用したあとで、アンインストールを行なった場合、ファイルが完全に消しきれず残っています。この内“FP31.mdb”はデータベースファイルです。過去データを保存しておきたい場合は、このファイルを別の場所に保存し、フォルダを消去してください。

注意

Windows 7/8/10 でのインストール注意点

本ソフトウェアは Windows システムに各種ドライバーなどのライブラリーが必要で、インストール時に自動的に組み込み処理が起動されます。

しかし Windows 7/8/10 をご使用のお客様の場合は、システムライブラリーをインストールする際にアドミニストレータ(管理者)権限でのインストールを要求されます。

この場合は指示に従い、アドミニストレータでログオンし、システムライブラリーをインストールしてください。

その後システムの再起動を要求されますので、再起動後に一般ユーザーでログオンしなおし、アプリケーションのインストールを行います。

(ライブラリーも、アプリケーションも CD-ROM 内の setup.exe を起動すれば、OK です。システムフォルダ内に必要なライブラリーがない場合のみアドミニストレータ権限でのインストールが必要になります。)

ネットワーク接続環境下での使用について

Windows 7/8/10 をご使用で、ネットワークに接続されているパーソナルコンピュータにインストールする場合は、以下の内容をご確認ください。

IrDA 通信は TCP/IP 技術(インターネットなどに使用されている通信技術)の一部を使っており、特殊な通信グループ・IP アドレスを使用します。

これに伴い、強固なインターネットセキュリティソフトウェアが通信を拒否する場合があります。

可能な限りネットワークに接続されていないコンピュータで使用してください。

また、仕方なくネットワークに接続されているコンピュータの場合は、セキュリティ設定を十分ご検討いただいた上で使用してください。

2-4. アンインストール作業

● 起動

アンインストールは、タスクバーの“スタート”から“設定”をクリックし、その中にある“コントロールパネル”を起動します。

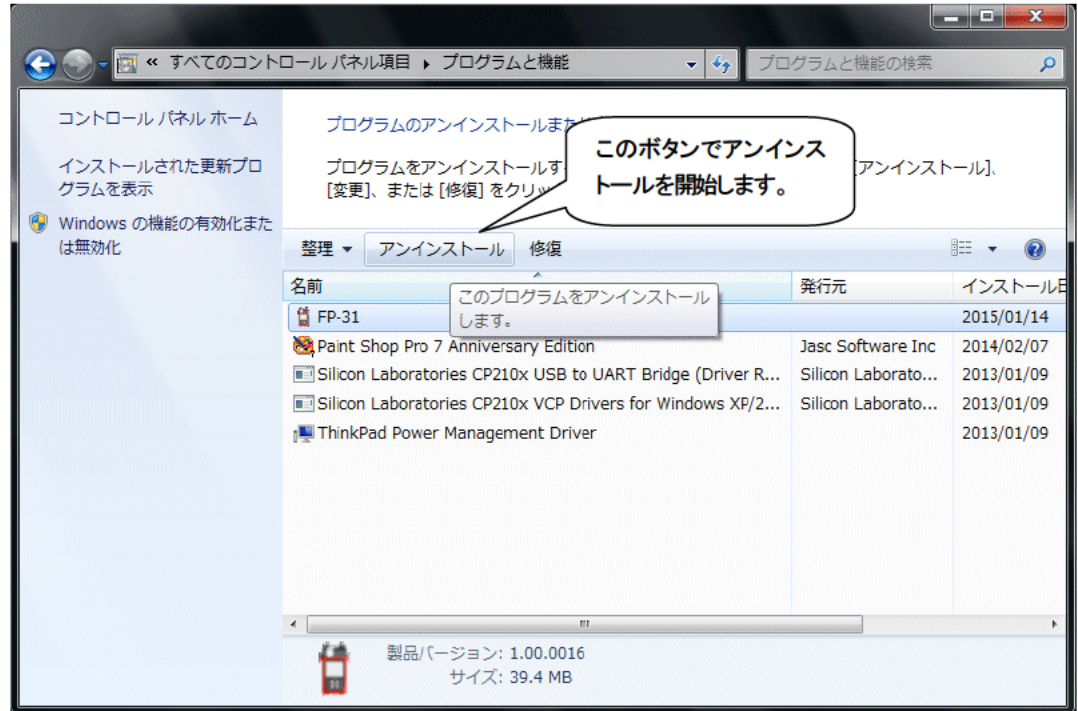
コントロールパネル(例)



コントロールパネル内の、“プログラムの追加と削除”をダブルクリックし、起動します。

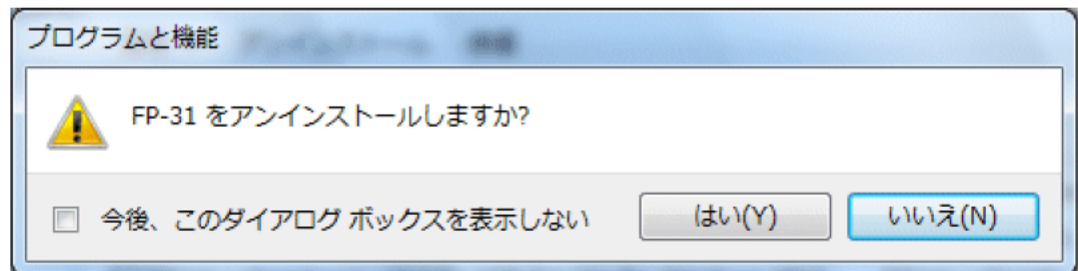
●FP-31 の選択

“アプリケーションの追加と削除”をダブルクリックすると以下の画面が起動します。



● 削除開始

“FP-31”を選択(クリック)し、“アンインストール”ボタンをクリックします。



“はい”をクリックすると、アンインストールを開始します。

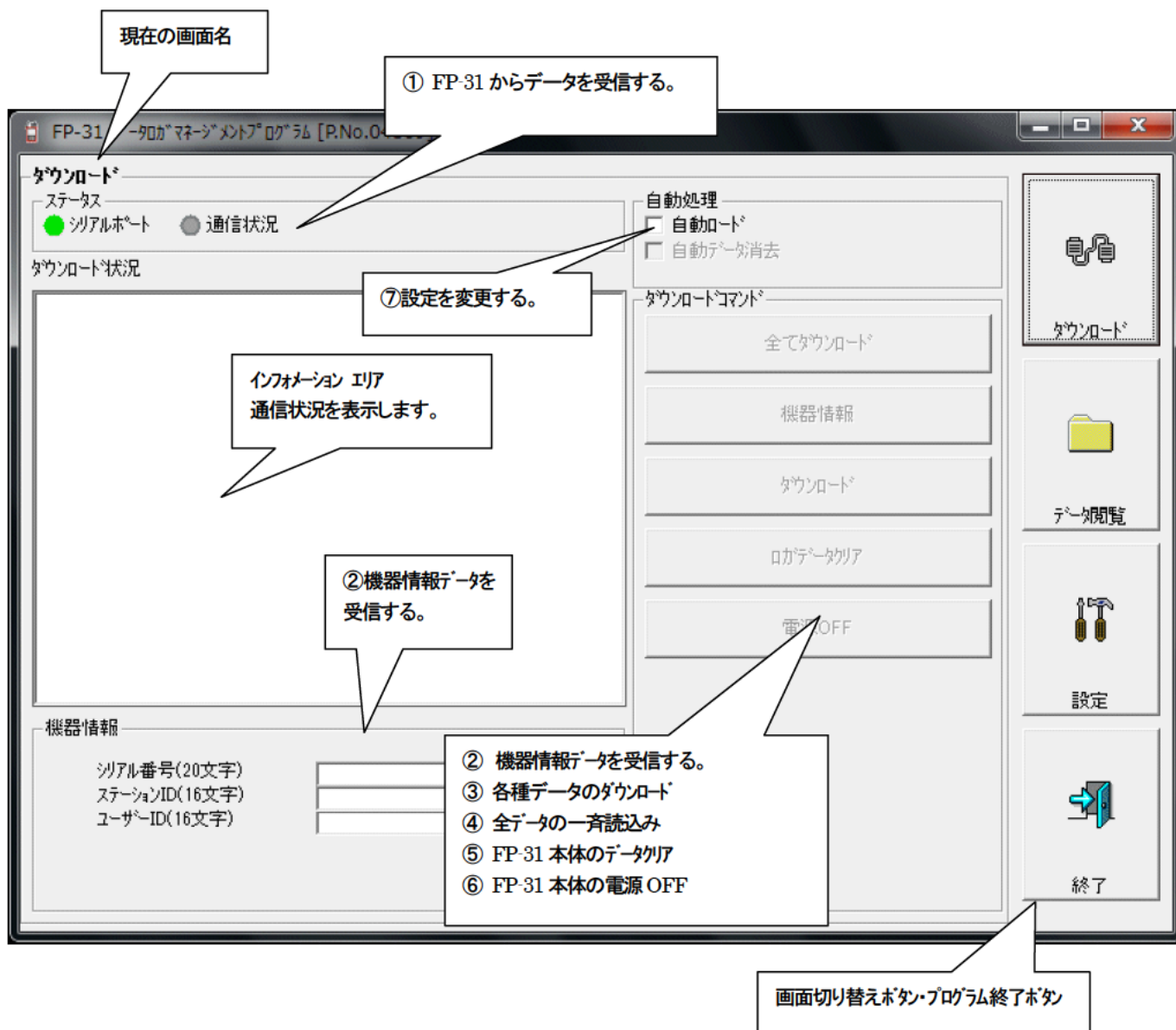
注意:アンインストール中に“共有コンポーネントを削除しますか?”とメッセージが出る場合があります。“全て削除”を選ぶと、他のアプリケーションに影響を与える場合がありますので、“全て残す”を選択してください。

3. 操作方法

デスクトップのショートカット“FP-31”、またはスタートメニューをクリックし、“プログラム”を起動します。

3-1. ダウンロード画面

オープニング画面の後、ダウンロード画面が表示されます。



データの通信は FP-31 本体を適切な位置に置き、本プログラムが起動した状態で、本体の電源を ON すれば自動的に通信可能か判断し、通信可能であれば受信待機状態になります。

① FP-31 からデータを受信する

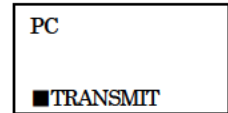
● 本体の準備

1. 本ソフトウェアを起動します。
2. FP-31 本体を、電源を切った状態で通信可能な位置に置きます。
3. FP-31 本体の電源を ON にします。

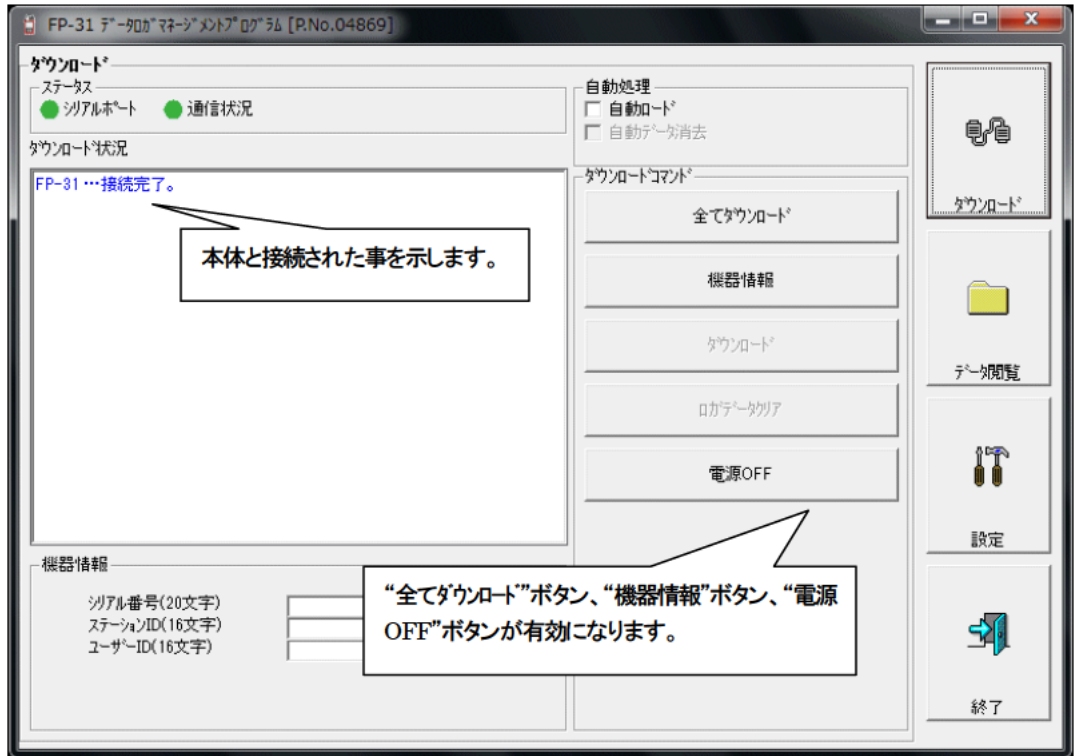
注意：

必ず、通信可能な位置に置いてから FP-31 の電源を ON にしてください。
電源 ON の状態で通信可能な位置に置いても接続できません。

FP-31 本体の液晶には右図のように表示されます。→
(FP-31 の液晶の表示能力の関係上、多少見にくくなっています。)



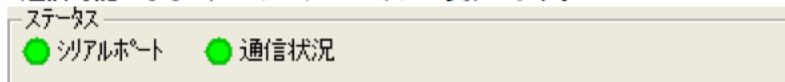
インフォメーション エリアに以下のように表示されます。



注意：

インフォメーション エリアの表示が上記と異なる場合は、FP-31 本体の電源を OFF にし、設置位置などを確認した上で再度電源を ON にしてください。

通信可能になると、“ステータス”エリアが変化します。



シリアルポート:

- 通信可能時 : 緑 パーソナルコンピューターのポートが使用可能
- 通信不可時 : 赤

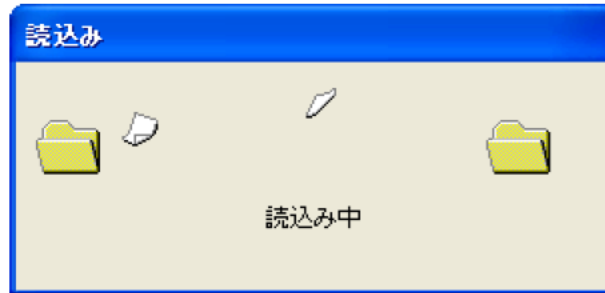
通信状況:

- 通信待ち時 : 灰
- 通信中 : 緑

② 機器情報データを受信する

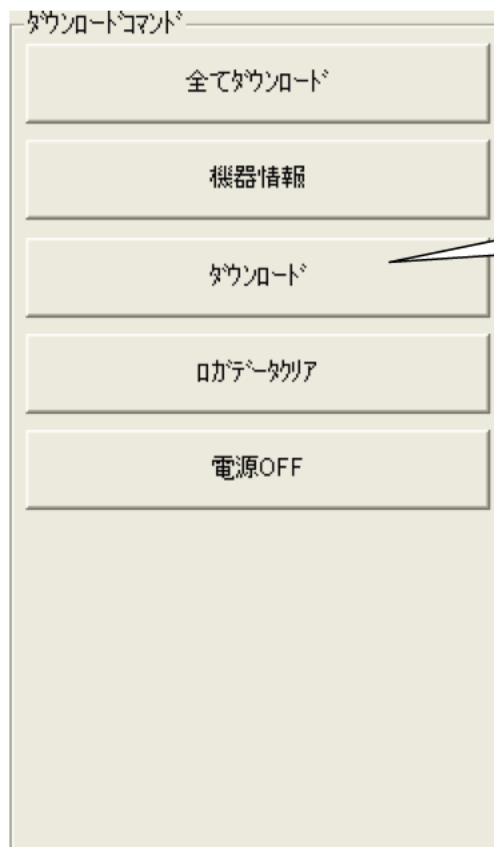
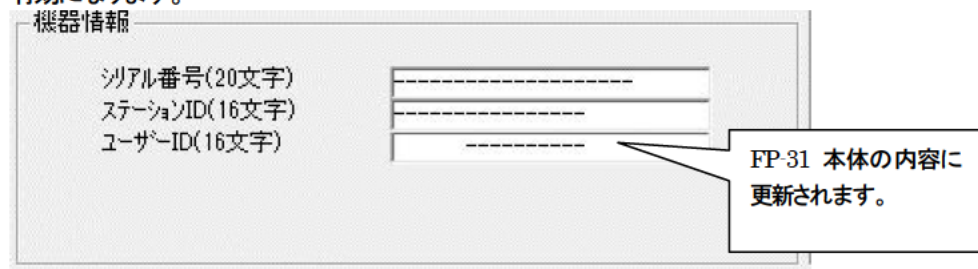
● 機器情報受信

最初に“機器情報”ボタンをクリックし、機器情報データの受信処理を行います。



受信中はアニメーションが表示されます。

“機器情報”データ受信後、“機器情報”エリアの内容が更新され、“ダウンロード”ボタン、“ロガークリア”ボタンが有効になります。

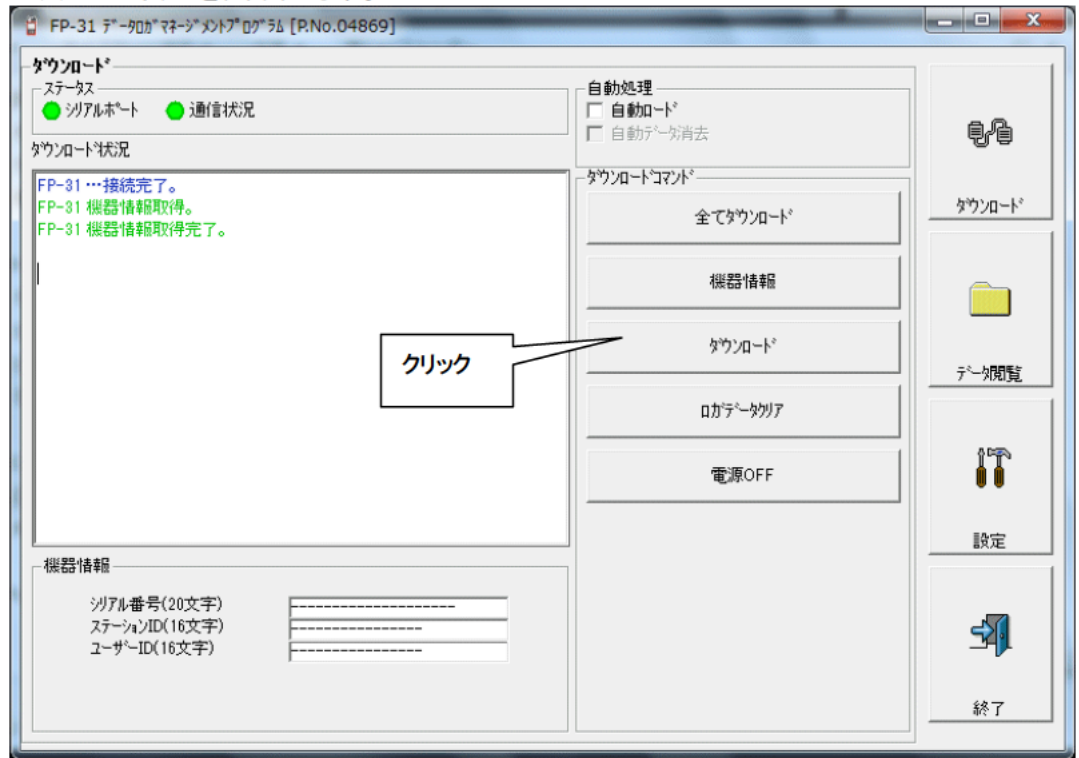


③ データのダウンロード

● スナップデータ

“機器情報”ボタンで、機器情報データをダウンロードした後に、“ダウンロード”ボタンが操作可能になります。

“ダウンロード”ボタンをクリックします。



インフォメーション エリアにデータ受信状況が表示されます。

注意：

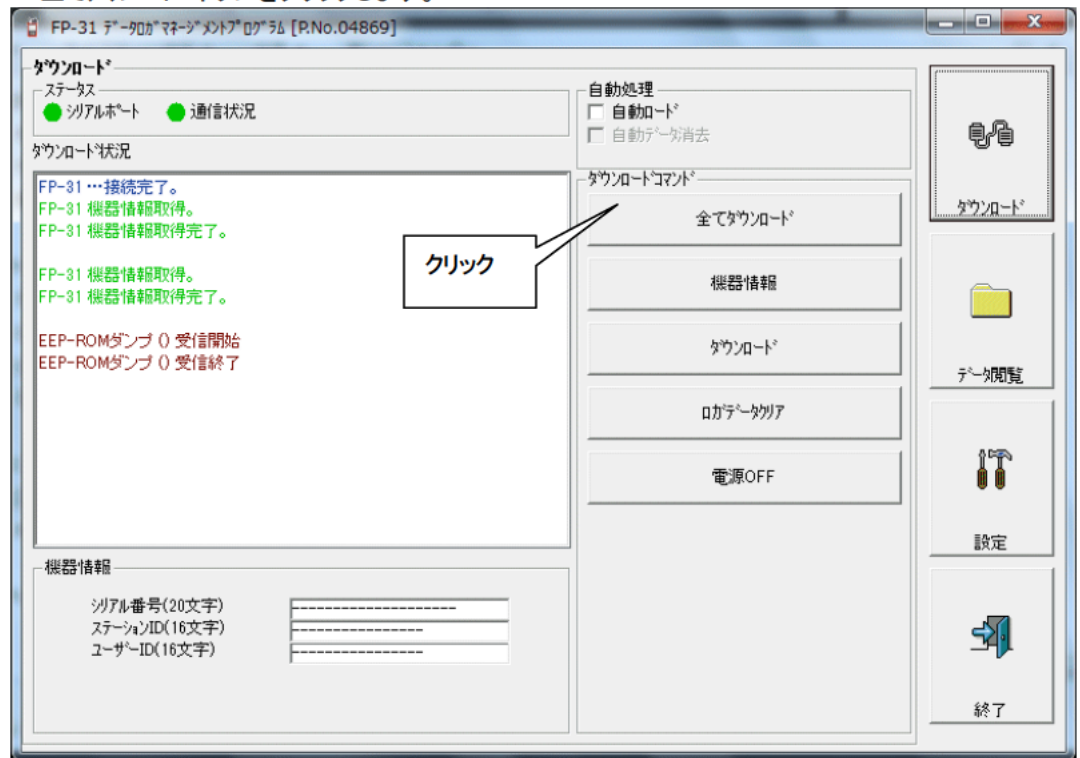
各データのダウンロード中は、他のデータアクセスを禁止するため、他のダウンロードボタン及び、“設定”ボタンが使用できなくなります。

④ 本体データの一斉ダウンロード

● 全データ

“全てダウンロード”ボタンは、“機器情報”、“スナップショット”、“電源 ON/OFF イベント”のデータを一斉にダウンロードします。

“全てダウンロード”ボタンをクリックします。



インフォメーション エリアにデータ受信状況が表示されます。

注意：

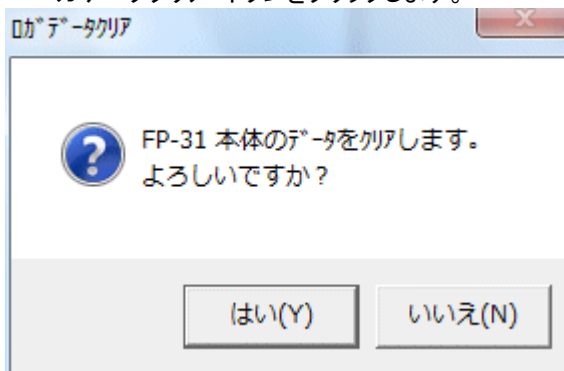
各データのダウンロード中は、他のデータアクセスを禁止するため、他のダウンロードボタン及び、“設定”ボタンが使用できなくなります。

⑤ FP-31 本体のデータクリア

● データクリア

“ログデータクリア”ボタンで FP-31 内部の各種データを削除します。

“ログデータクリア”ボタンをクリックします。



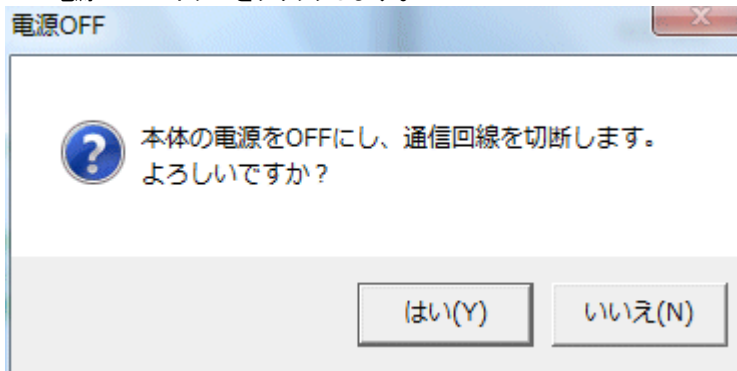
“はい”をクリックすると、データのクリア処理が開始されます。

⑥ FP-31 本体の電源 OFF

● 電源 OFF

“電源 OFF”ボタンで FP-31 本体の電源を OFF にし、パーソナルコンピュータのシリアルポートを初期化します。

1. “電源 OFF”ボタンをクリックします。

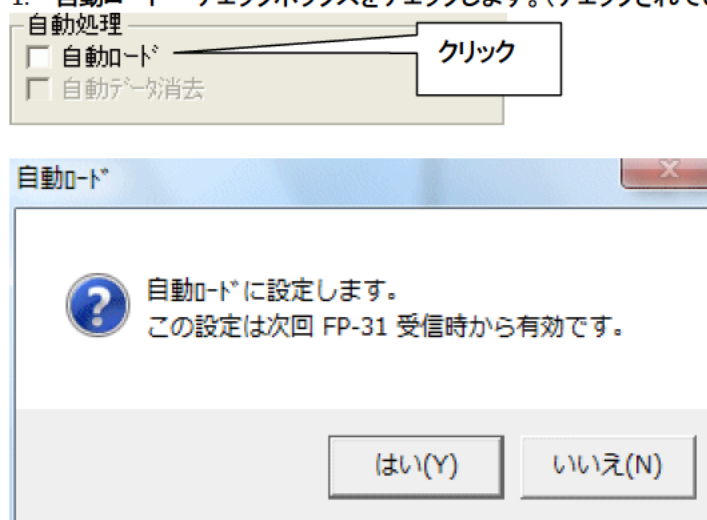


“はい”をクリックすると、FP-31 本体の電源 OFF 処理が開始され、パーソナルコンピュータのシリアルポートが初期化された後、本体からのデータ受信待ちになります。

⑦ 自動処理に変更する

● 自動ロードモード

1. “自動ロード” チェックボックスをチェックします。(チェックされていない状態の場合)



“はい”をクリックすると、自動処理に移行します。

“いいえ”をクリックすると、モード変更がキャンセルされます。

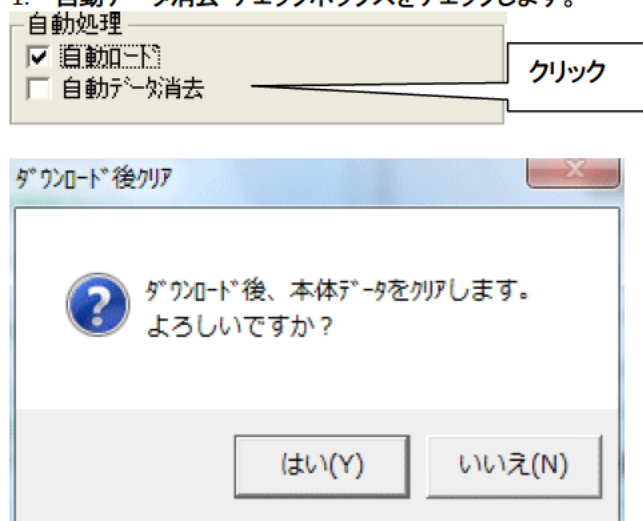
● ロード後の自動消去

FP-31 本体の電源を ON した後、パーソナルコンピュータ側が、自動的に全データをダウンロードし、FP-31 本体の電源を OFF にします。

自動処理中は、手動でダウンロードすることは出来ません。

自動処理では、ダウンロード後に、ダウンロード済みデータを自動削除することが出来ます。

1. “自動データ消去”チェックボックスをチェックします。

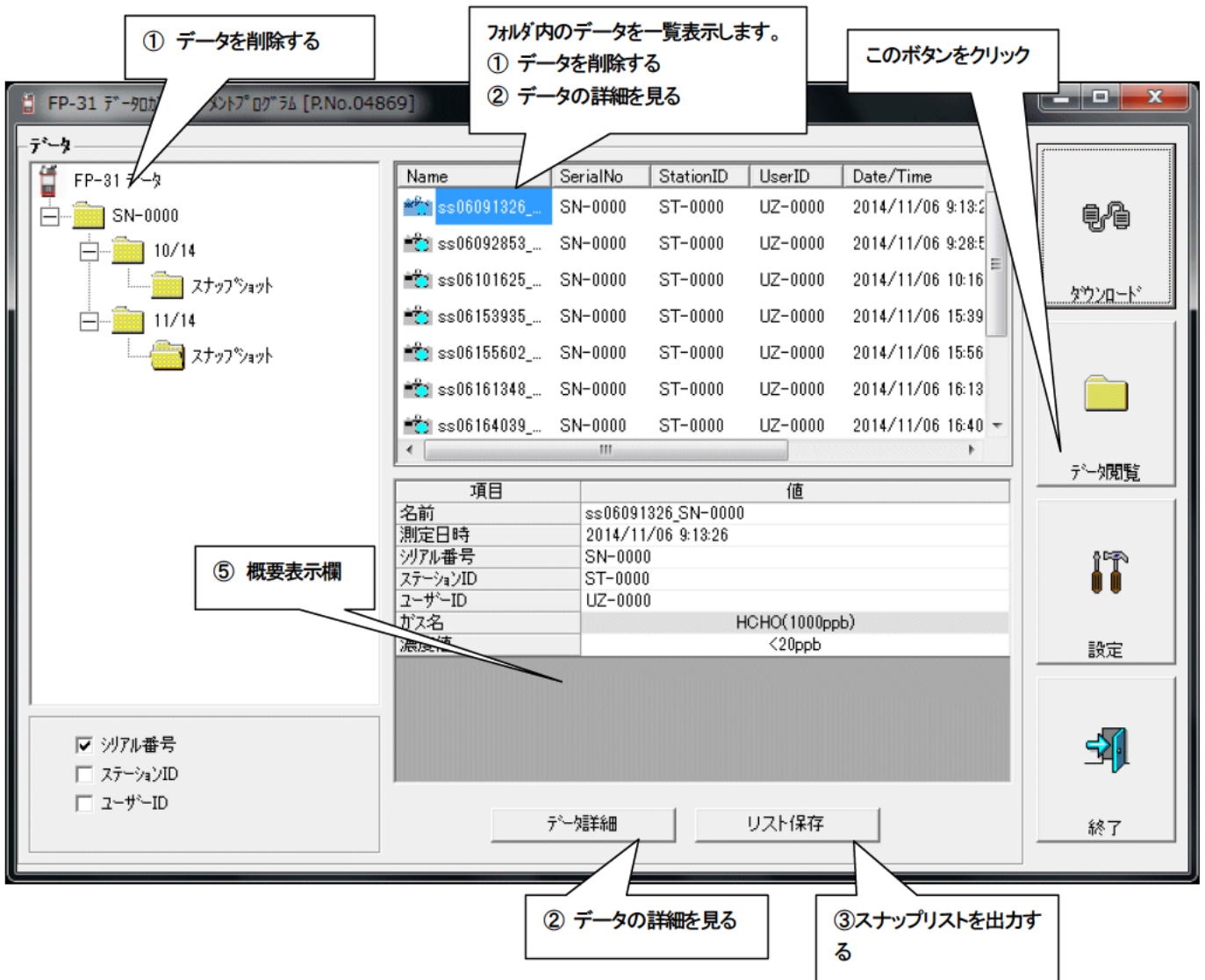


“はい”をクリックすると、全データをダウンロード後、FP-31 内部の各種データを自動的に削除します。

※何回もダウンロード → 消去 → ダウンロードと繰り返す場合、ダウンロード時間を短くできるので便利です。

3-2. データ閲覧画面

画面右端の“データ閲覧”ボタンをクリックすると以下の画面に切り替わり、ダウンロード データの一覧を見ることが出来ます。



Windows のエクスプローラと同じように操作可能です。但し以下のことは出来ません。

1. 各データの名称を変更する。
2. 各データを別の位置に移動する。

エクスプローラ風フォルダは、シリアル番号・ステーション ID・ユーザーID の順で階層表示されます。

各フォルダ、データ名は、以下のような規則に則っています。

フォルダ名: 12/09=2009 年 12 月のデータ

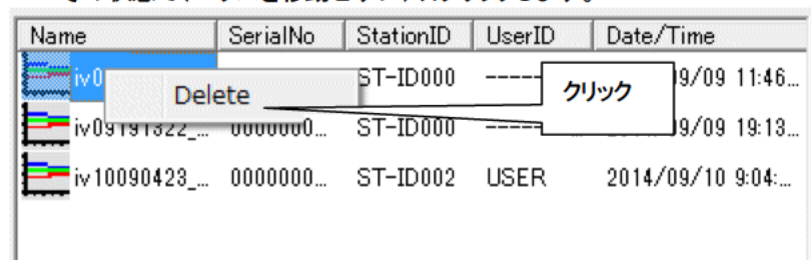
ファイル名: ss15152831_12345678901234567890=スナップショット 15 日 15 時 28 分 31 秒 (測定日時)

各フォルダのデータ数の制限はパーソナルコンピュータのメモリー制限内となりますが、レスポンスを保つためにデータファイルの年毎バックアップなどを行ってください。4. データの保守を参照してください。

① データを削除する

● 削除

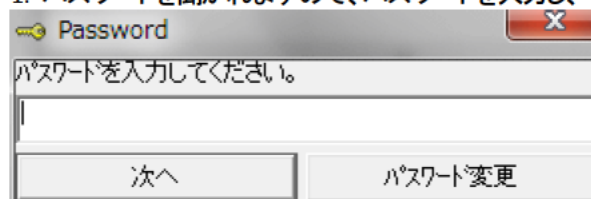
1. 削除したいデータ(フォルダ)を、クリックし選択状態にします。
2. その状態で(マウスを移動せずに)右クリックします。



● パスワードの入力

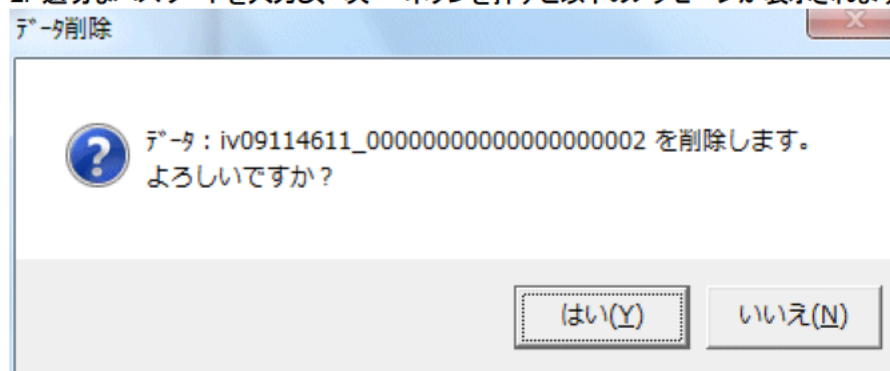
“Delete”メニューがでますので、“Delete”をクリックします。

1. パスワードを聞かれますので、パスワードを入力し、“次へ”ボタンを押してください。



注意:パスワードを入力せず、“次へ”ボタンを押したときは、削除処理がキャンセルされます。

2. 適切なパスワードを入力し、“次へ”ボタンを押すと以下のメッセージが表示されます。



“はい”ボタンでデータが削除されます。

“いいえ”ボタンでデータの削除がキャンセルされます。

② データの詳細を見る

● データ詳細へ

1. 詳細表示したいデータをクリックし、概要表示欄に概要が表示されていることを確認し、“データ詳細”ボタンをクリックします。

または、

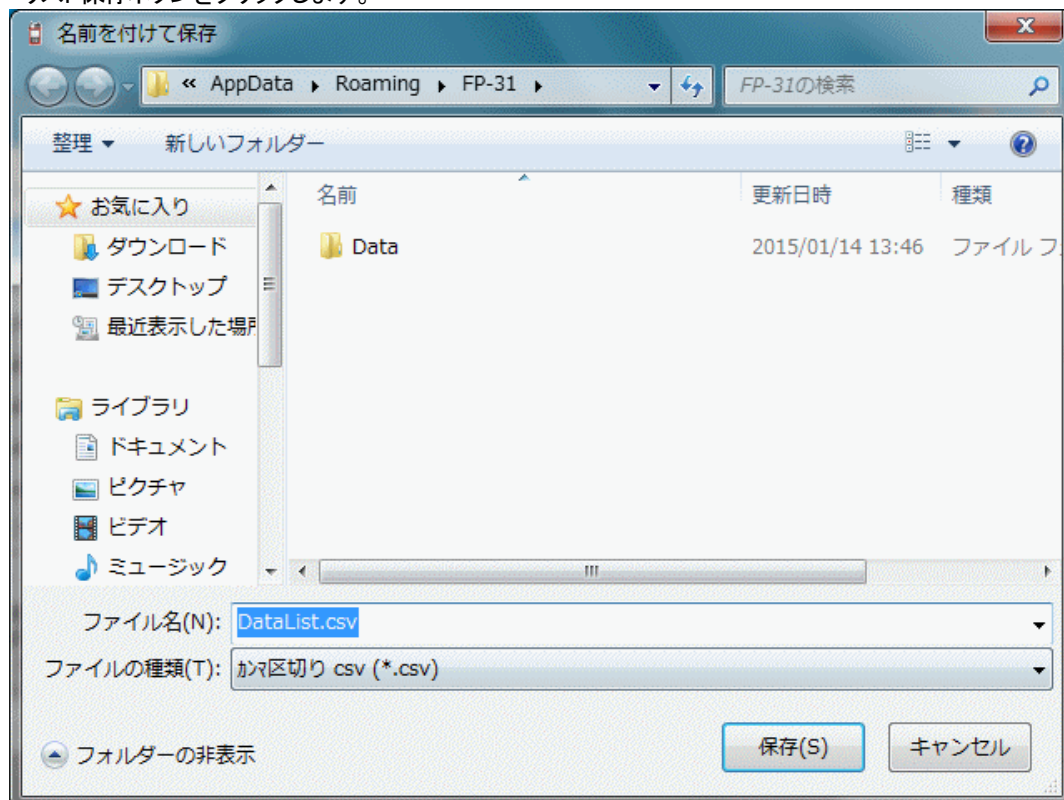
2. 詳細表示したいデータをダブルクリックします。

データ詳細の使用方法は → 3-3. データ詳細画面 を参照ください

③ スナップリストを出力する

● リスト保存

画面の上部一覧表をcsvファイルで保存します。
リスト保存ボタンをクリックします。

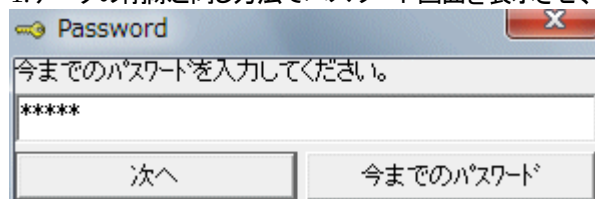


格納したい場所と、ファイル名を指定し、“保存”ボタンでデータが格納されます。

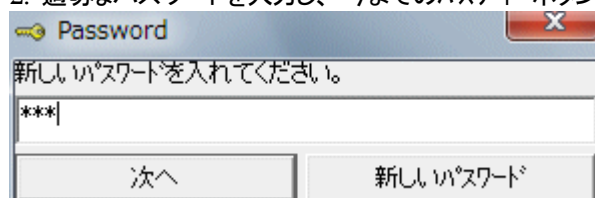
④ パスワードの変更

● パスワードの入力

1. データの削除と同じ方法でパスワード画面を表示させ、“パスワード変更”ボタンをクリックします。

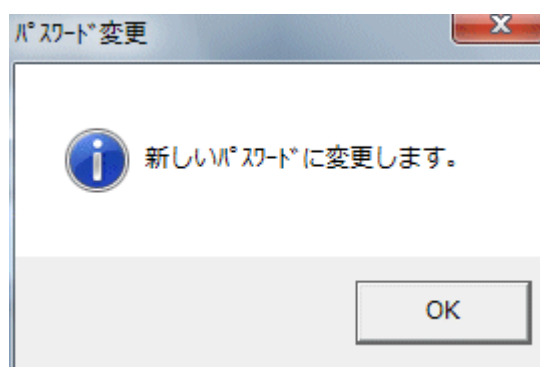


2. 適切なパスワードを入力し、“今までのパスワード”ボタンを押すと以下のメッセージが表示されます。



3. ここで新しいパスワードを入力し、“新しいパスワード”ボタンをクリックします。

4. 再度、同様にパスワードを聞いてきますので、同じ(新しい)パスワードを入力し、“新しいパスワード”をクリックします。



“OK”をクリックすれば、新しいパスワードに更新されます。

注意: インストール直後のパスワードは、“Riken”となっています。(大文字・小文字の区別がありません。)

⑤ 概要表示欄

● 内容詳細

選択されているデータが通常のデータの場合に、そのデータの概要が表示されます。

スナップショット

項目	値
名前	ss06091326_SN-0000
測定日時	2014/11/06 9:13:26
シリアル番号	SN-0000
ステーションID	ST-0000
ユーザーID	UZ-0000
ガス名	HCHO(1000ppb)
濃度値	<20ppb

名前 : データ名
 測定日時 : 記録時刻
 シリアル番号・ステーションID・ユーザーID : FP-31 本体のステータス
 ガス名 : ガス
 濃度値 : 測定時刻の濃度

3-3. データ詳細画面

各データの詳細内容を表・グラフにした画面です。

① プリンタに印刷する

② ファイルにセーブ

③ データの概要が同時に知りたい時

FP-31 データ管理プログラム [P.No.04869]

データ詳細(スナップショット)

● 表 ○ グラフ □ イベントのみ □ アウトライン

印刷 保存 ガス概要 戻る

番号	日時	HCHO(1000ppb)
1	2014/11/06 9:13:26	<20 ppb

ダウンロード

データ閲覧

設定

終了

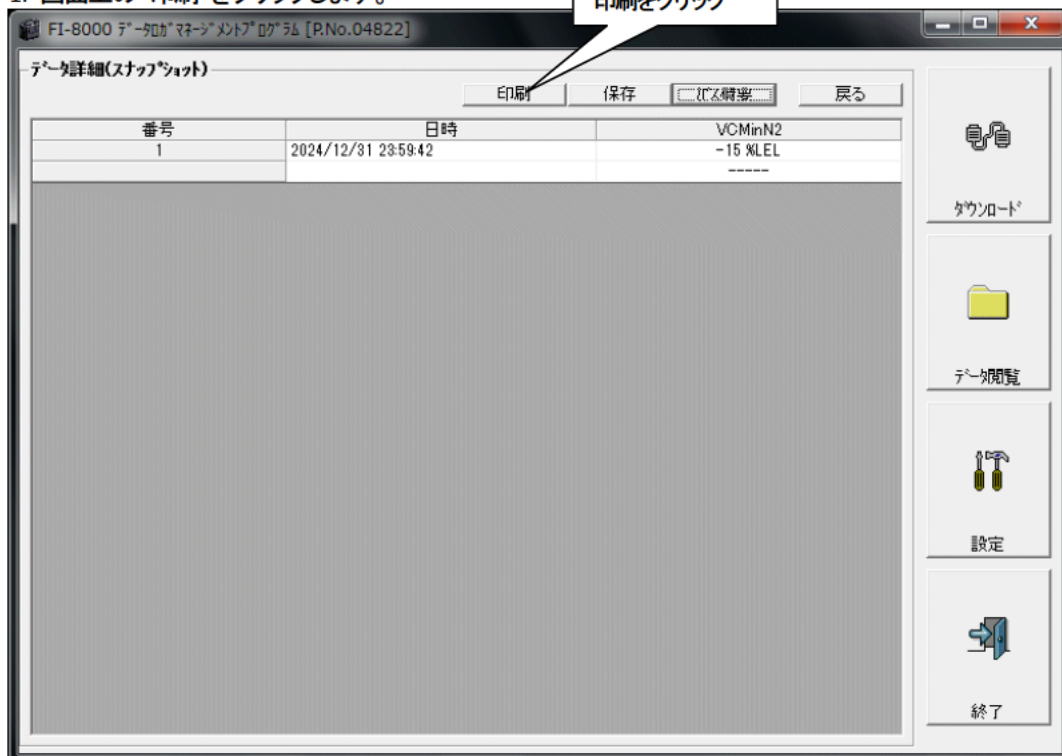
① プリンタに印刷する

● 印刷

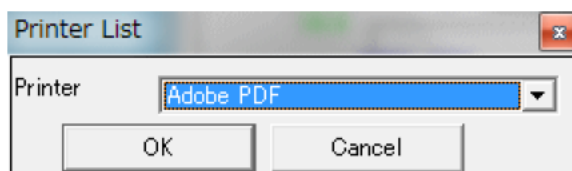
現時点でデータ詳細画面に表示している内容を、プリンタに送り印刷することができます。

1. 画面上の“印刷”をクリックします。

印刷をクリック



プリンタの選択画面が表示されますので、印刷を行いたいプリンタを選択して“OK”ボタンをクリックします。



“OK”ボタンをクリックすれば、印刷が開始されます。

“Cancel”ボタンをクリックすれば、印刷を行わず画面が戻ります。

印刷例(スナップショット)

FP-31 Data Logger (Snap Shot)		2015/01/14 11:56:54
項目	値	
名前	ss06091326_SN-0000	
測定日時	2014/11/06 9:13:26	
シリアル番号	SN-0000	
ステーションID	ST-0000	
ユーザーID	UZ-0000	
番号	日時	HCHO(1000ppb)
1	2014/11/06 9:13:26	<20 ppb

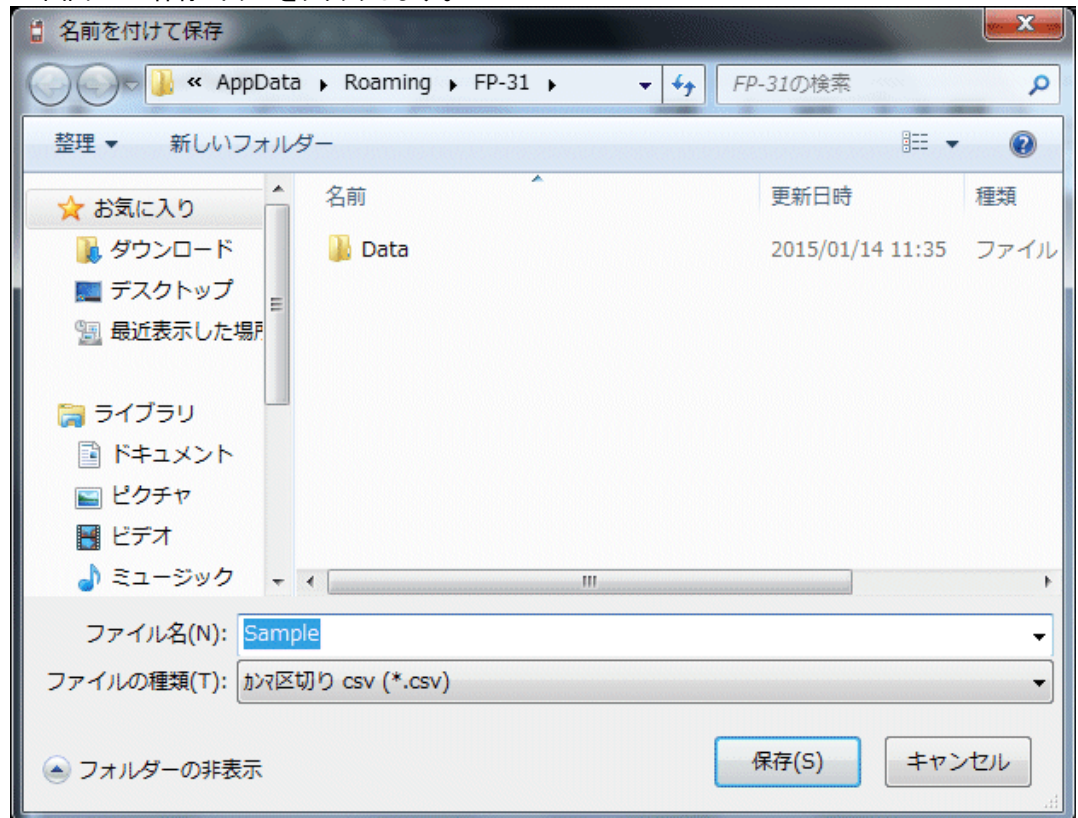
プリンタ設定の注意点

- ①プリンタの詳細設定は、ご使用のプリンタで異なります。お持ちのプリンタの取り扱い説明書をご参照ください。
 - ②本プログラムは“印刷範囲”の項目を指定することは出来ません。よって、選択した詳細データの一部のみを印刷するような使い方は出来ません。
 - ③印刷部数の設定は、指定したプリンタによって設定できるプリンタのみ変更可能になります。
ここでの変更は、以後使用する他のアプリケーションにも影響を与えます。(たとえば、印刷部数を2部にした場合、他のアプリケーションの印刷も2部になる場合があります。)
- 本プログラムでプリンタ設定を変更した場合で、その後、他のアプリケーションで印刷を行う場合は、そのアプリケーションの印刷設定をご確認してから印刷してください。

② ファイルに保存

● 保存

1. 画面上の“保存”ボタンをクリックします。

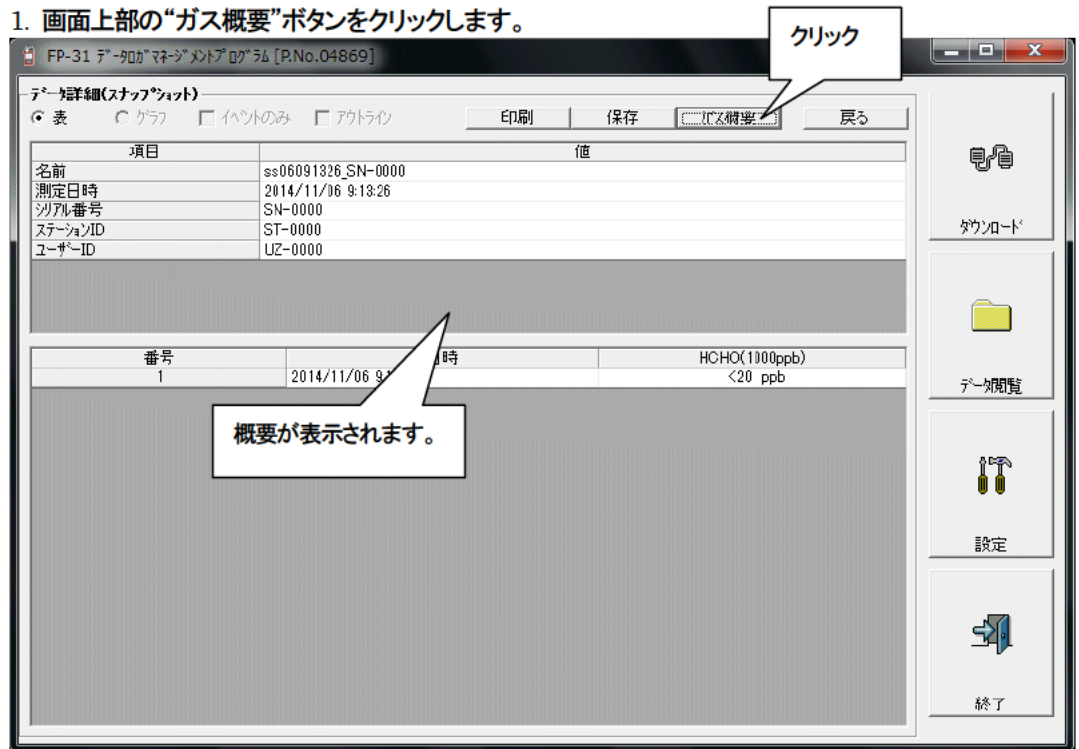


格納したい場所と、ファイル名を指定し、“保存”ボタンでデータが格納されます。
“キャンセル”ボタンで保存をキャンセルします。

③ データの概要が同時に知りたい時

● 概要表示

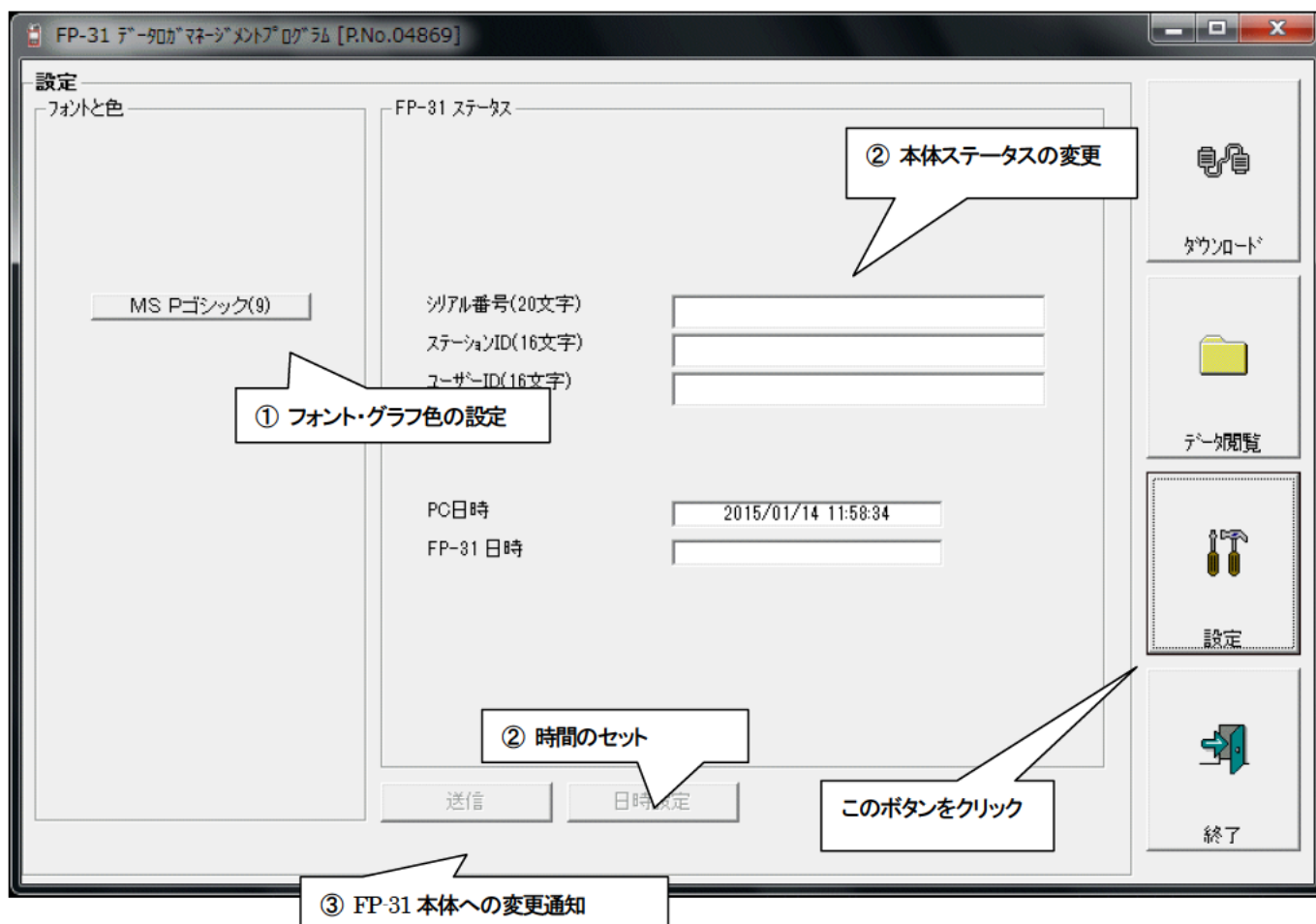
1. 画面上部の“ガス概要”ボタンをクリックします。



概要が表示されている状態で、“ガス概要”ボタンをクリックすると、概要表示部が消えます。

3-4. 設定画面

画面の表示設定と本体の内容の設定を行ないます。



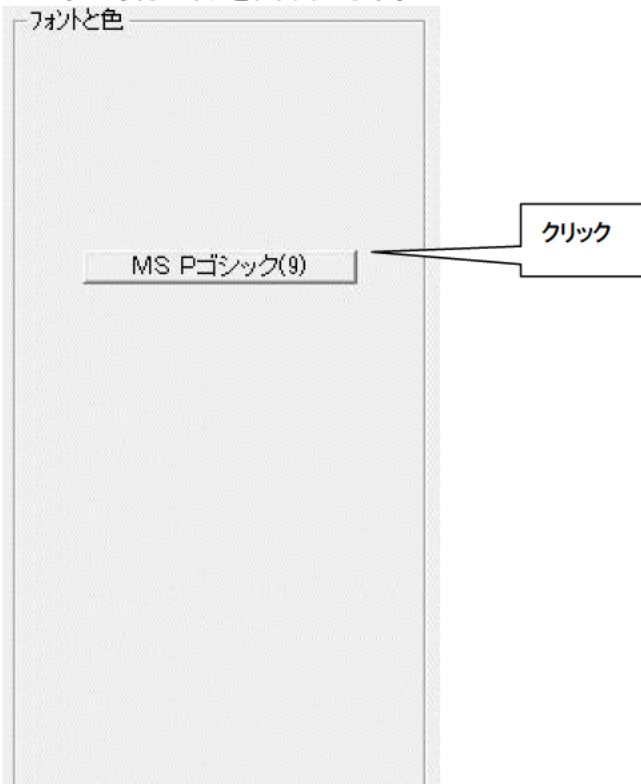
注意：設定・変更したデータは、必ず“送信”ボタンで、FP-31 本体に転送する必要があります。

注意：フォントは、次回起動時より適用されます。

① フォントの変更

● フォントの変更

1. フォント表示エリアをクリックします。



フォント設定ダイアログが出ますので、適切なフォントを設定してください。

注意：

著しく大きなフォントなどを使用すると、画面が見づらくなる場合があります。
この変更は次回起動時から有効になります。

② 本体ステータスの変更

● 変更

2. ステータスエリアの任意のデータを変更します。

“シリアル番号” 20桁、“ステーションID”、“ユーザーID” 16桁 の内容を変更することができます。

“日時設定”ボタンで、パーソナルコンピュータ(“PC 日時”)と、FP-31 本体の内部時計(“FP-31 日時”)を同じに合わせます。

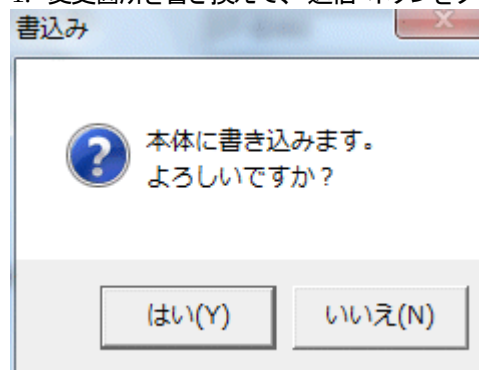
注意 : 各日時エリアは、直接入力できません。

注意 : 時計セット以外は、この変更だけで FP-31 本体の内容は書き換わっていません。必ず本体への変更要求処理＝送信を行なってください。

③ FP-31 本体への変更通知

● 変更の通知

1. 変更箇所を書き換えて、“送信”ボタンをクリックします。



“はい”ボタンをクリックすると、変更内容を FP-31 本体に転送、記憶されます。

“いいえ”ボタンをクリックすると、通知をキャンセルします。

注意 : 変更内容を戻すことは出来ません。変更通知前であれば、“ダウンロード”画面で、“機器情報”ボタンをクリックし、機器情報データをダウンロードすることで、本体内部の情報に戻すことができます。

4. データの保守

使用方法によっては、1日に数回のデータを読み込む場合など、すぐにデータが多くなり見たいデータを探すだけでも苦労してしまう場合も考えられます。また、予期せぬパーソナルコンピュータのトラブルなどで、貴重なデータを失ってしまう可能性もゼロではありません。

これら不測事態にも対応できるように、定期的にデータのバックアップを取っておくことをお勧めします。

4-1. データの格納構造の詳細

データはインストールで作成されたショートカットのプロパティ”作業フォルダー”で示されるフォルダ内にあります。

1)ファイル名 : FP31.mdb

ファイル種別 : Microsoft JET3.6 データベースファイル

2)ファイル名 : Data

ファイル種別 : フォルダ。年毎、月毎のフォルダ下、各トレンドデータファイル

4-2. バックアップ

使用形態にもよりますが、別のハードディスク装置や、外部補助記録装置(MO、CD-Rなど)にコピーすることをおすすめします。

戻すときは、インストールで作成されたショートカットのプロパティ”作業フォルダー”で示されるフォルダにコピーすればプログラムは起動時にデータを検索しますので、データを見るのが可能になります。

5. 使用上の注意点

本プログラムをご使用の場合は、以下の項目について十分配慮するようお願いいたします。

- ① データ受信時は、適切な位置に FP-31 があることを確認してください。適切でない場合は、正常に通信できません。
- ② 受信中は、同時に他のアプリケーションでも同じような操作をするようなことは避けてください。(たとえば、データ受信中に他のアプリケーションで赤外線通信を行うような行為)
- ③ 本プログラムを強制終了しないでください。(Ctrl + Alt + Del での操作など)本プログラムは終了処理時に設定パラメータを保存し、次回起動時に備えます。そのため、強制終了した場合は、次回起動に障害をもたらす可能性があります。
- ④ データファイルを直接書きかえることはしないでください。

6. トラブルシューティング

症状	原因	解決策
通信が出来ない	本体位置が悪い。障害物がある。	本体の位置を変える。
	他に赤外線を使うものがある。	他機器の電源をOFFにするか干渉しないようにする。
通信中にエラーが出る	外乱光がある。	赤外線を使うものを排除する。
	通信中に FP-31 本体が移動。	通信中に動かさないようにする。
通信データがおかしい	外乱光がある。	赤外線を使うものを排除する。

上記対策でも直らない場合は、弊社サービスへご連絡ください。

7. IrDA 仕様

7-1. 赤外線通信について

本体とは、赤外線通信(IrDA プロトコル)にて通信を行います。
ご使用のコンピューターが赤外線通信可能か確認してください。
また、本体の赤外線通信ポートとパーソナルコンピューターの通信ポートが一直線になるようにし、他の光の干渉を抑えるようにしてください。

注意:

このプログラムは IrDA が使用可能な環境でのみ、FP-31 本体と通信が行えます。ご使用のパーソナルコンピューターに IrDA 装置が内蔵されているか、使用可能な状況になっているかご確認をお願いします。

また、IrDA 装置が内蔵されていない機器(ほとんどのデスクトップ型と一部のノート型)の場合は市販の IrDA⇄USB 変換器などをご使用ください。

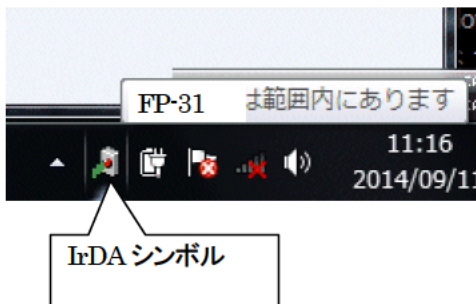
7-2. 通信開始の状態表示

通信が開始されるときにオペレーティングシステムが赤外線を持った装置があることを認識し、タスクバーに表示されます。

その表示で、通信状態をある程度把握することができます。

注意: オペレーティングシステムならびに IrDA ドライバーの設定で表示内容などが異なる場合があります。

7-2-1. オペレーティングシステムが FP-31 を認識したときのタスクバーの表示



IrDA のシンボルが現れ、カーソルを重ねると「FP-31 は範囲内にあります」と表示されます。

7-2-2. データログプログラムと FP-31 本体が通信を行っているときのタスクバーの表示



IrDA のシンボルが通信のアニメーションに変化し、カーソルを重ねると「FP-31 とのワイヤレスリンクがxxxxbpsで行われています」と表示されます。

*「xxxx」は通信速度を示し、通常は 57600bps です。ただし環境の状況で 38400bps 程度まで落ちることがあります。

注意:

FP-31 本体やデータログプログラムの内部処理オーバーヘッド時間の関係上、回線速度が 38400bps 以上であれば全体の通信時間にほとんど変化はありません。これは、FP-31 本体内でデータを作成している時間や、データログプログラムが受信データを解析している時間が比較的大きいためです。

8. ファイル構成

インストール時のファイル内容・運用時のファイル内容の詳細です。

8-1. インストール直後のカレントディレクトリ

ファイル名	詳細
FP31.exe RkIrDA11.ocx RKComm.ocx Filemove.avi	FP-31 プログラム本体 赤外線通信コンポーネント シリアル通信コンポーネント データ受信中のアニメーションファイル

8-2. 運用中のカレントディレクトリ

ファイル名	詳細
FP31.ini FP31.DAT FP31.mdb Data SerialLog.log	FP-31 初期設定ファイル データダウンロード用ファイル データベースファイル (Microsoft Jet3.6 データベース) トレンドデータファイル保存ディレクトリ プログラム起動時からの通信ポート内容の記録(調査・保守用)

注意: ファイルは、プログラム起動時以降に作成されます。

9. ソフトウェア機能諸元

製品名(プログラム名)	FP-31 データログマネージメントプログラム
製品型式	SW-FP-31
実行ファイル名	FP31.EXE
使用可能 OS	Microsoft 社製 Windows 7 Windows 8 Windows 10
プログラム容量	本体部約 3MB、ライブラリー約5. 2MB (インストール時最大40MB の領域使用)
本体通信	赤外線(IrDA1.1 プロトコル)準拠方式 標準通信設定 ボーレート 57600bps(上限値) データビット 8ビット ストップビット 1ビット パリティ 偶数
転送時間	最大約 3 分(標準通信設定時、最大データ数時)
媒体	CD-ROM 1 枚
パッケージ内容	取扱説明書(本仕様書) 製品保証 登録カード 使用許諾契約書